2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	ホッとスペース・和
事業名	居場所づくり

目的・背景

・当団体が活動している宮前区は、川崎市全区（7 区）で 2021 年度の虐待認知件数は川崎区に次いで 2 番目に多い区である。また活動拠点である菅生地域も核家族が増え共働き世帯も上昇しシングル世帯も散見され安心できる人間関係を築いていくことが難しいと考えられ保護者の人間関係はこどもにも影響があると言われておりこどもの社会的課題に気づきにくいことに繋がりやすい。こどもの食支援（孤食）も含めた居場所、そして保護者の出会いの場として安心できる人間関係を築けるキッカケの場としたい。

事業の効果

・リピーター率 80%以上という結果から、利用者にとって居場所になりつつあるのではないかと考える。

・家庭のこと友人関係等、こどもたちから話を聴くことが度々ある。家庭環境の複雑さを受入れている様子や、友人関係の難しさ、クラスでの立ち位置等で悩んでいることが見えてくる。利害関係のない斜めの関係の大人だから話してくれるんだろうと同時に話を聴いてもらえる存在の必要性を感じる。

・保護者同士が集まって、こどもや学校のことで情報交換していたり、おしゃべりしている姿から、保護者自身の時間をもてていることで帰宅の際には表情が明るくなっており気分転換ができているのではないかと思われる。

実施結果

◇食事つき居場所
・第二木曜日　15 時～20 時　蔵敷自治会館
（15 時～居場所開室、17 時～食事）
・第四金曜日　15 時～20 時　稗原団地自治会館
（15 時～居場所開室、17 時～食事）
※参加人数…平均 70 名

◇おやつつき居場所
・毎週水曜日（原則）　13 時~17 時
※参加人数…平均 17 名

◇夏まつり（自治会主催）への出店
ぜりーを販売
◇小学校バザー（PTA 主催）への出店
かき氷、大学芋の販売
◇ミニミニあそびランドの開催
11/3開催、120 名の参加者、ゲームコーナー4ヵ所を担当

事業の課題と今後の展望

・マンパワー不足と活動資金が課題となっている

上記 2 点の課題について「川崎プロボノ部」へ相談・助言を受けることとした。

〇活動資金について

第一歩としてホームページや SNS の発信を目に留まるような魅力的なものにして寄附金に繋げるようにする。

〇マンパワーについて

・地区社協さんのボランティア募集の記事に掲載
2 名の方にボランティアをしていただけることとなった。
・多摩区 SDC に伺い、ボランティア登録の申請を行った。
こどもたちにとって大学生は年齢的に近くお兄さんお姉さんのような存在になりうる。また、こどもたちにとってのロールモデルとしての存在にもなり得ることから、居場所に関わってもらいたいと考えている。

食事の準備の様子

ミニミニあそびランドでの釣りコーナー

会食の様子

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	定非営利活動法人　鹿島田・新川崎まちづくりの会
事業名	南武線開かずの踏切解消まちづくり事業

目的・背景	事業の効果
南武線開かずの踏切解消に向けて、行政や関係事業者に住民の声を届けます。また、関係する沿線地域に最新情報を広くお知らせします。 年 2 回の文化行事・まちづくり講演会を開催することで、住民が顔を合わせて地域の将来を一緒に考える契機とし、問題解決のための取り組みに何らかの形で参画したいとする人を増やします。	講演会2回目（2月）のアンケートでは、自分の住む地域の将来を考え問題解決のための取り組みに何らかの形で参画したいとする人は目標の 60%に対して 40%に留まりました。 しかし、「参加は難しいが協力はしたい」とする人が 50%あり、取り組みを通じて課題解決の主体として関わる地域住民とのつながりが広がりました。
実施結果	**事業の課題と今後の展望**
文化行事・まちづくり講演会を2回開催しました。参加者は 1 回目 28 名、2 回目 34 名、合計 62 名でした。 まちづくり講演会に向けて NPO ニュースを 3 回発行し、配布枚数は合計1万2千枚でした。 文化行事・まちづくり講演会の参加者にアンケートをとり、市民の意識や変化を把握しました。 問題解決のための取り組みに何らかの形で参画したいとする人は 1 回目 77%、2 回目 40%でした。 １回目のアンケート回収が9通で課題を残しましたが、２回目は改善をして30通の回収となりました。	身近なまちの課題をテーマにした講演会・文化行事を企画し、これまで関心の無かった人が何らかの形でまちづくりの活動に参画するようになる契機をつくります。 南武線開かずの踏切問題など地域の課題について地域・住民の声を行政や JR などの関係事業者に届け、その結果をまた地域に戻す循環を繰り返すことで、住み続けられるまちづくりを一緒に進める連携を広げます。 事業を展開するなかで参画者や会員を増やし、安定して自立運営できる財政基盤確立を目指します。

７月：コカリナ演奏とまちづくり講演会

川崎市との懇談会３回

２月：コーラスとまちづくり講演会

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	多摩川と周辺の環境を考える多摩区の会 （多摩川の会）
事業名	多摩川を知る（学習会・見学会）

目的・背景

2019 年 10 月の台風 19 号による多摩川の増水と内水氾濫により、多摩区菅稲田堤 3 丁目付近では 1m以上の冠水が起きた。

そこで、被害に遭った方々や多摩川周辺の住民で、多摩川とその周辺の環境や防災について学習していくことを始めた。

会は多摩川とその周辺の環境や防災について、理解を深めることを目的とし、様々な学習会や見学会を計画してきた。

事業の効果

今年度後半から、行事の案内チラシを区役所や図書館に配架した。会員やかつての参加者約 100 人にはメール・手渡し・郵送・HP での配信によって連絡を繰り返したことにより、新しく参加する方が生まれると共に、コアな参加者を確保することができた。

行事実施後には必ずニュースを発行し、行事内容の要点やアンケートに寄せられた意見・感想を紹介することで、会の活動について理解と協力の深まりを得ることができた。

実施結果

第 1 回　学習会 **「大丸用水～歴史と現状」**（6 月 25 日）

講師：中村和樹氏（ミューラボ）

第 2 回　学習会 **「鶴見川を学ぼう」**（9 月 30 日）

講師：小林範和氏（鶴見川流域ネットワーキング）

第 3 回　学習会 **「どうする多摩川の洪水対策」**（11 月 18 日）

講師：中山幸男氏（安親多摩川の会）

第 1 回　見学会 **「大丸用水を歩く」**（10 月 21 日）

講師：中村和樹氏（ミューラボ）

第 2 回　見学会**「鶴見川・多目的遊水地」**（9 月 30 日）

第 2 回学習会の後に実施

第 3 回　見学会**「多摩川の堤防沿いに歩く」**（12 月 3 日）

講師：運営委員会・中山幸男氏

自主事業

見学会　4 月 16 日**「多摩川の旧河道を歩く」**

（講師：菊地恒雄氏～日本地名研究所事務局長）

学習会　3 月 3 日**「能登半島地震報告とスマホで見る防災アプリ」**

（講師：高鍋祐人氏～多摩区役所危機管理防災）

事業の課題と今後の展望

行事の実施曜日が偏ることがないよう参加者に配慮するとともに、学習会の後半には参加者からの意見や感想の時間を多く取り、見学会の終了時にはその場での意見交換の機会を設けたい。

大学連携事業に参加し、HP・リーフレット・動画の作成・提供をいただき、2023 年 1 月より HP を公開したので、今後は HP の更新に努め、会の広報活動の拡充に努めたい。また、行事の宣伝・申し込み・感想を集約し、イベント保険の申し込みも Web 上で扱い、会員数の拡大をめざしたい。

他の関連団体（ミューラボやいなぎエコミューゼ等）との連携によって具体的な実践例を学び、自治会や町会とも協力し合い、国や自治体との意見交換に努めたい。

また、10 年を目安に活動を継続・発展させ、会の基盤を強化していく。会の一定の総括として、市民向けの防災教本「多摩川と周辺の環境を考える」の刊行をめざし、その準備をする。

1 回　見学会

第 1 回　学習会

第 3 回　見学会

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	NPO法人地域で子どもを育む会
事業名	外国人の子どもや大人に日本語を学んでもらうために

目的・背景

日本にいる外国人、またその子どもの外国人の日本語を就職できる最低限のレベルまで引き上げることを目的としています。現在川崎市内に多くの外国人の方がいます。またその家族を本国から呼び寄せている方も多く、その子供たちの今後の進路が、問題となっています。経済的に裕福でない家庭も多く、日々の暮らしで手一杯な生活の中、子ども達は将来の不安を抱えながら暮らしている方もいます。

事業の効果

日本語能力検定試験 N4 レベルの勉強に取り組むことで、それぞれの目指す社会へ向けて進んで行けるよう、お手伝いが出来るようにします。具体的には、外国人の子どもが、高校卒業時にスムーズに就職できるようになることや、外国人の方々が地域の日本人の方々とのコミュニケーション豊かに仲良く生活していけるようになることが、目標を達成して獲得する成果と考えます。

実施結果

日本語能力検定試験 N4 レベル合格を達成する、または、そのレベルになる事を目指し勉強することで、それぞれの目指す社会へ向けて進んで行けるよう、お手伝いが出来ました。

具体的には、外国人のお子さんで中学卒業後日本語が充分でなかったために、高校進学をあきらめていた方が、このコースを受講し伴走することで、再度高校入学を目指し無事達成しました。また、大人の社会人では、個人営業の接客においてスムーズに日本語でのやり取りが出来るようになり、自信となり、意欲的に事業に取り組めるようになりました。そして小学校の ALT 教師の方々は、学校内での先生同士の意思疎通が取りやすくなり、結果的に、小学校での英語の授業のカリキュラムの打合せ時に自分たちのアイデアを提案できるようになりました。

事業の課題と今後の展望

今回、想定していたより日本語能力検定試験合格を目指す方が少ないことが認識できたので、日本語能力検定試験にこだわらず、それぞれのニーズに合わせた内容にカスタマイズしていければと考えます。特に、15回は長く感じるようでした。どなたも最後まで完遂できませんでした。

今回、川崎市教育委員会後援となり、川崎市立の中学・高校全校にチラシ等を配布できることとなりましたので、若者に合わせた内容にしていければと考えます。。

川崎市立全中学校
川崎市国際交流センター
地域の無料日本語教室に配布
（川崎市・川崎市教育委員会後援）

SNS/YouTube 配信

高校受験を目指すこととなった
K 君と初顔合わせと一緒に
溝の口文教堂本店で教材選び

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

団体名	一般社団法人カノンパートナーズ
事業名	アクティブシニア向け「健幸アップ体操」（トレーニング・リハビリ・機能訓練を中心に）

目的・背景	事業の効果
超高齢化社会の中で、いつまでも住み慣れた地域や自宅で生活したいという想いがあります。一方、高齢化に伴い医療や介護などに係る社会保障費の抑制という経済的課題もあります。また、コロナ感染拡大により外出自粛が続き、足腰が弱り筋力が落ち、歩行困難な状態や認知機能の低下がみられるフレイル（要介護状態の前段階）となる中高齢者が増え社会的課題になっています。 本事業は、介護・医療の有資格者が介護施設での機能訓練の経験を活かし、中高年齢者へ効果的な運動を行い、脳や体の活性化を図ることで健康寿命を延ばします。また、参加者が一緒に集える場として活動することで、お互いに支え合うコミュニティをつくることも目的としています。	①　健幸アップ体操参加で、QOL（生活の質）の向上やいきいきとした生活を送れているかなど、アンケートを実施し満足度85%以上を目指します。 ②　現登録者75名から100名（定員）を目指し、お互いに支え合うコミュニティの機会を増やします。 ③　見守りネットワークや様々なイベントへの参加を紹介し社会参加を促します。 ④　出張教室、地域イベント参加者200名を目指し、より多くの中高年齢者へ介護予防の重要性と運動への参加を促します。 地域で活躍する担い手の育成、雇用の創出、市民のやる気を引き出す仕掛けをつくり地域活性化につなげます。
実施結果	**事業の課題と今後の展望**
①　健幸アップ体操教室参加で、アンケートを実施し満足度90%を達成しました。 ②　現登録者100名（定員）を達成しました。 お互いに支え合うコミュニティの機会を増やしました。 例：お互いで連絡し合う関係や街角挨拶が慣例化 ③　様々なイベントへの参加を紹介し参加を促しました。 例：行政主催の散歩・SDC イベント、ごえん楽市に多数参加など ④　出張教室、地域イベント参加者200名以上を達成し、介護予防の重要性と運動への参加を促しました。 例：幸区老人会、北部市場イベント、二子新地商店街、地域包括支援センター主催教室など多数	①　地域で活躍する担い手の育成、雇用の創出つなげ事業着手が遅れています。2年以内に加速させ3年で事業化を目指します。 ②　温暖化による激暑の「通い」が課題。現在の Zoom や LINE 配信を更に進め、自宅での体操教室開催の強化が必要です。 ③　現在、8教室全体の会員数が165名となりました。事業継続のため、教室を1～2ケ所増し200名を目します。

小杉：疾患をお持ちの方向け柔軟運動

中原：転倒防止ステップ運動

新城：側近を伸ばし呼吸機能アップ運動

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	こどもしんぶん部
事業名	子どもの目線で川崎市の魅力を伝える「こどもしんぶん部」

目的・背景	事業の効果
目的：こども支援。地元を知ることで好きになる 背景：小学３年生～中学３年生までの子どもたちが川崎市内のお店や場所を取材し、全員で一つの新聞を作り上げます。 記事作成、発表、展示をすることで、たくさんの人に自分の意見を知ってもらい、認めてもらえます。自分の言葉で伝えることで、表現力を身に付けることができます。また、子どもの自己肯定感を育みます。	文章を書くことや、調べ学習が好きな子どもたちの探求心を深める居場所づくり。自分の言葉で質問をし、表現することの大切さを知る。テレビやインターネットで知ったあこがれの場所だけでなく、、自分の身近な場所にも素晴らしい場所や人がたくさんあることを気づくきっかけづくりとなる。子どもの記事を読むことで、子ども竹でなく、大人も地域をよく知り、より地元が好きになると考える。
実施結果	**事業の課題と今後の展望**
４月２２日　オリエンテーション　14 名参加 ７月２日　明治大学　黒川農場　11 名参加 ８月２日　川崎東郵便局　9 名参加 ８月１７日　アズーロ・ネロ（フロンターレのショプ）　11 名参加 ９月２０日　nichinichi(パン屋）　9 名参加 １０月１４日　小田急 OX（スーパー）　6 名参加 １１月１２日　あさお福祉まつり放送担当 １１月２３日　発表会・ワークショップ出店　11 名参加 ・文章を作ることに自信がなかったのですが、自主的に興味を持ち、調べ、文章にする経験をすることができて成長させていただけたと思っています ・制限なく、自由に発表、書かせていただけることに感謝しています ・学校や学年を越えたメンバーの意見を聞くことで、より色んな面から物事を見ることができた ・普段見ることができない場所へ連れて行っていただきありがとうございました。取材を通して街を知るきっかけになっていることに感謝しています！	・今後は HP を作成し、活動の裏側を作成した新聞をインターネットで公開したいと考えています。 ・活動のスペースや資金を応援していただけるようなところを探したい。 ・活動資金のための出店や活動を増やしたい。 ・過去 4 年間の活動した新聞を披露する場を増やしたいと考えています

取材の様子（川崎東郵便局）

取材の様子（スーパー：小田急 OX）

発表会（小田急のくらしマーケット）

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	特定非営利活動法人なかよしの花
事業名	**地域とともに歩む交流イベント及び地域貢献事業**

目的・背景	事業の効果
①　イベントなどで参加者を増やし、重度障害者の生活を知る機会を増やすことで障害や障害者を身近に感じ、なかよしの家で障害者が普通に日常生活を送っている姿を地域に知らせ、支えあう差別のない地域づくりにつなげたい。 ②　すがお塾は参加者を増やし、遊びを通して子どもの育ちを支援し、子どもたちが障害者と自然に交流し、身近に感じ、当たり前に受け入れられる地域づくりに繋げたい。 ③　SNS や動画を通しイベントやなかよしの家で障害者が普通に生活をしている姿を地域の人々に知ってもらい、障害者を知ることで差別のない地域づくりにつなげる。	①　イベントなどでなかよしの家に訪問してもらうことでなかよしの家の存在を知ってもらえた。「地域で子どもが参加できる楽しいイベントがあるとよいなど」の声があった。リピータの子どもも何人か育っている。 ②　すがお塾では昔の火おこしや割りばし鉄砲づくり、紙飛行機づくりを行った。一緒に遊ぶことでなかよしの家に関心を持ってもらうことが出来た。「なかよしの家を知っている」、「なかよしの家ってどんなところ」などの声があった。 ③インスタグラムにショート動画をアップすることでフォロアー数も徐々に増え、。和気あいあいの職場ですね、生活している方の笑顔が素敵などの反応があった。
実施結果	**事業の課題と今後の展望**
①　地域交流イベント、ミニミニ遊びランドでは子どもと親子200名の参加があった。ボチャ―大会では高齢者6名、障害者、子どもその他で約40名参加があった。ハロウイン、クリスマス等地域交流イベントではなかよしの家への訪問数で105名があった。 ②　夏のすがお塾では火おこしに10人の子ども、親子の参加、ミニミニあそびランドでは35名の子ども、親子の参加があった。なかよしの家からも障害の利用者が参加、交流の機会が持てた。スタンプラリー、チラシでなかよしの家の紹介などで理解を図った。 ③　主に日常生活の配信なので、ユーチューブよりフォロア数の多いインスタグラムにショート動画を配信し、ホームページともリンクさせた。100名の閲覧数が増えた	①　地域の関係団体と共催して「ボッチャ体験会」、「ミニミニ遊びランド」などの地域交流イベントを共同で開催、子ども文化センターの「手つなぎ祭り」にボッチャ体験コーナーを持たせてもらい参加。市民活動センターごえん楽市では関連福祉団体、ボランティア団体と交流が出来、声をかけたりかけられることで、協力いただける関係をつくることが出来た。様々なアイデアをいただきながら地域で子どもや親子が楽しめるイベントを共同で開催して、地域のつながりを強めていきたい。その中で地域ニーズの把握、地域課題を共有し、解決を図りたい。 　次年度以降もコラボ事業、交流イベント、すがお塾などの事業の予算化を図り、継続し、発展させ、差別のない、障害者が暮らしやすい地域づくりに貢献していきたい。

火おこし体験

ミニミニ遊びランド

紙飛行機づくり

団体名	川崎地名研究会
事業名	川崎地名研究会 40 年の歩み　―地名を通して、市民と共に―

目的・背景

川崎市では他の地域に比べて地名に対する関心が高い。市内にある日本地名研究所を地元から支援する会として、今までも、機会をとらえて講座や講演会を実施してきた。

川崎地名研究会 40 年の歩みを、催しを通して市民の方に地名の持つ意味や役割をどう伝えていくか検討され、4 つの事業を実施することにした。Ⅰ公開連続講演会として①歴史の舞台川崎宿、②かわさきの文化財二ヶ領用水、③地名の観点から塚の地名、④民俗から民間信仰と村の4つの観点から実施した。Ⅱ「川崎の地名」パネル企画展では 7 区から各区 5 点に絞って写真と解説で紹介する。Ⅲ「記念誌」は市民に地名の意味や役割を伝てるものに。Ⅳ祝う会は地名を愛好する人々の交流の場と位置づける。

事業の効果

公開連続講演会やパネル企画展は市政だよりや公的機関への閲覧配布案内チラシが功を奏して、多くの参加者があった。

公開連続講演会はテーマにより関心に違いがあることは予想されたが、かなり専門的な質問がでるなど、参加者アンケートからわかりやすい内容を求められる要望があり、できるだけ平易な話に心掛けた。同時に、質問時間を取り、納得していただけるよう配慮した。

パネル企画展は、12 月から 1 月にかけて実施し、地名の意味や大切さ、そして地域への愛着などがアンケートからも読み取れる。

記念誌は、講演会やパネル展の内容を掲載し、参加できなかった方にも事業の意味を伝える。

祝う会は市内の文化活動団体などの参加が実現した。

実施結果

一つのテーマに偏らないようにして開催した連続講演会で、歴史や道、遺跡などに関心を持つ方が多くいました。この講演会を通して、参加者自身にも行動できるよう訴えてきた。

企画展は家族連れや帰省した方も多く参観され、懐かしい地名や川崎市内にも知らない地名があり、興味を持って見学していた。

記念誌を作成することで、過去の研究会の歩みを新たに知ることで、活動の幅を広げる場となった。

祝う会を内輪の会とせず、今まで協力いただいた方をお招きし、会員自身が、幅広い方々と意見交換と交流ができたことは、大きな収穫であった。

事業の課題と今後の展望

川崎地名研究会では今までも、テーマと講師によって公開講座を実施してきました。早速、市域で活動しているかたの協力を得て、公開講座を開くことになり、準備を進めている。

パネル企画展について、公開プレゼンテーションの折、審査委員より川崎の地域性から、全市で開催できないかとの意見があり、今年の 4 月 27 日～6 月 12 日に大山街道ふるさと館で実施することになった。今後も、このパネルを有効に活用したい。

この事業を通して、新会員のいままでの経験が多いに生かされ、会員相互のコミュニケーションが活発になった。

祝う会では、初代日本地名研究所所長谷川健一さんを知る方々から、地名の意義を機会あることに、これからも発信していくよう励まされた。

第 2 回講演会　二ヶ領用水川崎堀七堰

パネル企画展で地名の解説に見入る

記念誌「たちばな」表紙

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	玉川地区夏祭り実行委員会
事業名	玉川夏まつり 2023

目的・背景

目的

①子どもたちの「集い」の場づくりを通じた地元意識の醸成

②子どもたちが安心してチャレンジできる場づくり

③玉川地区住民・団体交流促進の新たな契機づくり

背景

：玉川地区をはじめとする武蔵小杉周辺エリアでは、子育て世代の流入などによる人口増加が進んでいるが、共働き家庭（勤務先が川崎市外が多数）の増加や私立への進学率の向上などから、「地域とのつながり」づくりは重要な課題となっている。

本事業は、子どもたちが「気軽に集える同窓会」の場づくりと同時に、子どもたちが安心して身近な大人と共にチャレンジできる場を目指している。

事業の効果

①出店数の半数以上が小学校～高校生であること、花火鑑賞は気軽に誘いやすいことから、特に中高生において「同窓会」の場として機能している。出店した子どもたちからは花火の協賛の申し出もあり、「自分たちがあの花火をあげている」という意識から地元イベントをともにつくる当事者意識の醸成につながりつつある。

②子どもと大人（個人・企業）が肩を並べて出店する形態のため、子どもたち自身が他店をよく観察・研究して、イベント中に改善や対策をする様子が見受けられた。出店者の保護者からは、子どもがこんなに自律的に動けるのかという驚きの声や出店後に成長が見られたとの声もいただいている。

③地域団体（玉川地区ドッチボールクラブ、中丸子みゆき子ども会）や市民活動（ふれあい食堂、アイサーチジャパン）の活動告知の機会

実施結果

参加者数：延べ 3000 人（当日運営ボランティア 50 人）

開催日時：2023 年 10 月 28 日

場所：川崎市立下沼部小学校　校庭

主な参加者：玉川中学校区および近隣地区在住者

出店数：13 店（うち小学校～高校生が運営に関わる出店 7 店）

主な出店団体：玉川地区ドッチボールクラブ、中丸子みゆき子ども会、ふれあい食堂

当日スケジュール：11 時～当日運営メンバー集合・会場設営開始

14 時～開場・模擬店開始

16 時～河川敷設営開始

18 時～ナイアガラ花火（校庭）打ち上げ花火（河川敷）

https://musashikosugi.blog.shinobi.jp/Entry/6298/ で記事公開

事業の課題と今後の展望

・コロナ終息によるイベントの復活により、地域団体からの協賛の減額や運営ボランティアの確保が難しくなっている

⇒ コロナ禍でもイベント継続したことには地元町内会などから評価はいただけており、地元での風物詩・シンボルとしてイベント認知は向上している。新規協賛先の開拓と並行して、協賛席の設置や子どもたちの様々なチャレンジの場となっていることをアピールして、地域住民からの個人協賛の拡大を図る。

⇒ イベント規模の拡大より、少数でもイベントがまわせるオペレーションの確立や次世代での運営ボランティア増を目指した参加者（出店・運営側）の満足度向上に努める

・継続運営のための収入基盤の確保

⇒ 資金調達と PR の両面からクラウドファンディングの導入を検討する

⇒ 子どもたちのチャレンジの場の支援という観点からの資金調達を試みる

小中学生 15 名が当日運営メンバーとして参加

出店 13 店舗中半数が小学～高校生の出店

打上花火効果でイベント認知度はあがっている

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	リトルクラシック　in Kawasaki
事業名	高齢者と奏でるカタリベ音楽ワークショップ ～老いの頃の小さな生きがいを求めて～

目的・背景

超高齢化社会を迎える今日、高齢者の社会的孤立の問題が顕在化している。人生の晩年に一人ひとりが社会のメンバーとして居場所や役割意識を持って社会に参加すること、また「老い」に対する周囲の理解を深め支え合う体制を構築していくことは喫緊の課題となっている。

本事業では、高齢者施設において定期的かつ継続的に音楽プログラムを行う。そのために、デイサービス利用者を対象としたワークショップを、音楽回想法と即興演奏を用いて定期的に開催する。その際には個別のインタビューで語られたエピソードを音楽と関連付け、ストーリーを組み立てるなど、音楽を通した回想法を採り入れる。

事業の効果

高齢者の社会参加活動機会を単発的に創出するのではなく、ワークショップを定期的かつ継続的に実施することで、高齢者は自分が生きていることを肯定してくれる場（役割意識を感じられる場）として認識できるようになり、小さな「生きがい」を発見することができる。

また、継続的なワークショップを通じ、高齢者の社会参加活動頻度及び活動意欲、社交性が高まることは、鬱や認知症、要介護になるリスクが低下することも期待される。

さらに、介護サービスを提供する側に、高齢者の新たな側面や個性を知る機会を創出することで、提供者側と高齢者及びその家族とのより良好な関係性の構築に寄与できる。

実施結果

ワークショップを定期的かつ継続的に実施することで、小さな「生きがい」づくりに寄与できたと考える。また、高齢者の活動意欲、社交性が高まったことがアンケート調査からも確認できた。施設スタッフ（介護士）を対象にした本事業の「今後期待される効果」として、「全身的なリハビリ効果になる」「認知症予防や社会交流の促進につながる」「初めて使う楽器や昔の歌を歌ったりと、脳にも新しい刺激が加わることで、認知症予防にもつながる」といった評価を得ている。

事業の課題と今後の展望

本事業は、成果発表会をもって地域へ「老い」に対する理解を深めるきっかけを作る目論見であったが、高齢者の多くが独居であり家族の参加は難しく、移動手段が限られることなどの理由から、公の場でのコンサートはふさわしくないことが明らかになった。より日常に近い形での関係性構築をベースに、他のタイプの施設（入居施設、グループホーム）でも実践を重ねることにより、施設や家族、地域への理解を求める努力を続けるとともに、活動の周知を図っていきたい。

参加者のエピソードに基づいた選曲

ミュージックベルで演奏に参加

歌うことにより、心も体も温まる

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	一般社団法人 ICERC Japan
事業名	海の環境学習　イルカ・クジラ ジュニアクラブ

目的・背景

近年、環境問題は深刻になる一方であり、海ごみ、地球温暖化、海洋汚染など、海洋環境への社会的関心も高まっている。川崎近郊の海にもイルカ・クジラは生息しており、人の暮らしに近いところにイルカ・クジラの存在を感じることも増えてきているが、人の暮らしと具体的にどのようなつながりがあるかを学ぶ機会は、多いとは言えない。

川崎市は多摩川に沿っており、山から海への「みずのつながり」を体感できる立地にある。川の流れを生活のなかでも実感する川崎市民が「みずのつながり」を意識することは、社会的にも大きな意義があることと考える。

対象とする小学生時期は、しっかり考え体感する機会を得ることにより、その後の人生の考え方や行動に大きな影響を持つ時期である。川崎の子どもたちがリーダーとなって社会的な関心を喚起して欲しい。

事業の効果

全講座終了後アンケート（回答率 58%）より
回答割合と具体的な行動の変化

1　イルカ・クジラや海に関心が高まった（95%）、
　　理解が深まった（100%）
　→ニュースに関心を持つようになった

2　自然環境に関心が高まった（95%）
　　理解が深まった（100%）
　→地域で行なっている子供参加の SDGs 活動にも参加するようになった
　→家庭ゴミの分別、地域で散らかっているゴミなどに意識がいくようになった

3　環境問題に対し、自ら考え行動できるようになった（79%）
　→水道の無駄遣いをしなくなった
　→ものを大事に使うようになった

実施結果

内容		参加者数（人）				
		4 年	5 年	6 年	兄弟	親
第 1 回	リバークリーン	6	3	1	3	9
第 2 回	レクチャー	13	4	1	4	12
第 3 回	ビーチクリーン	12	7	3	12	18
第 4 回	ポスター制作	6	3	3	2	6

対象者述べ参加者数　62 人
述べ総参加人数　128 人

◎　ポスター展　来場者数　約 100 人以上

＜各回アンケート＞　受講満足度　100%（回答率　72%）

・家庭で伝えても伝えきれない環境問題を、何のために取り組むべきなのか、自分の体を動かし感じ考えることができた
・全てに参加することはできなかったが、最後にポスター展に行って全体像を把握できて良かった
・親子で共に学び、考えることができた

事業の課題と今後の展望

当初は、SNS 等を通じた広報・全回参加を基本・児童の参加中心・有料実施の計画だったが、**認知度が低いため集客が厳しく、計画を立て直し、基本参加費無料・親子兄弟参可能とし、市環境局および教育委員会の後援を得て小学校へのチラシを配布。**申込者のアンケート回答は「学校配布のチラシを見て応募した」が 90%以上だった。

次年度は、再考プランでスタートし、ターゲットに直接情報を届け、有料参加、継続参加に取り組んでいく。

・継続参加の仕組み…初年度参加者へのジュニアリーダーとしての参画、中高校生ボランティアスタッフとしての参画
・資料代の徴収…アンケートより「有料でも参加したい」との回答(50%以上)。保険代/資料代の有料化
・採択直後からの教育委員会と市への後援依頼、小学校へのチラシ配布
・夏休み時期のお試し参加会実施・・・初年度参加者が友人などを誘いやすい体験の機会を作る

写真（3点まで）とキャプション（説明）を挿入してください

第一回多摩川でのリバークリーンアップ

第二回海ごみの現状と影響について講演会

子どもたちの成果を発表したポスター展

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	認定 NPO 法人フリースペースたまりば
事業名	（コロナ禍における）子ども・若者・その家族のための交流拠点づくり

目的・背景

1、共働き家族が多い中、放課後の子どもの居場所や、保育園帰りの親子が一息いれる居場所が求められている

⇒安心して過ごせるように子どもの保護者との関係性も強化し、えんくるの支援者となってもらう。

2、ロールモデルとなる大人との接点が限られているためフリースペースで育った若者たちは将来に不安を感じている

⇒少し年上の先輩たちとの交流および同じような悩みを持つ若者の情報交換の場をつくる

3、食料や食事を提供するだけでは課題解にならない対象者に対してもう一歩踏み込んだ食支援を行っていく

⇒時間、お金をかけず、様々な困難を抱えている子どもとその家族が簡単にできる料理経験する場を提供する

事業の効果

えんくる食堂、こども☆きっさ、料理教室が利用者にとって必要な場所として定着し地域からも認識されるようになった。

◎こども☆きっさ

こどもだけでこられる居場所として保護者に認識される

安心して過ごせる居場所　不登校の子供を受け入れてくれること

◎えんくる食堂　時短料理教室

こどもと一緒に参加する楽しみが増えた

◎就労を目指す若者たちが「こども☆きっさ」「えんくる食堂」に関わることによって次のステップ（就職）に進んだ

◎協力関係の拡がり

定期的に寄付寄贈をしてくださる個人、組織が増えた

実施結果

①　　子ども　若者　家族の利用数

・こども☆きっさ　登録数　171　名　　年間合計利用者　1,265　名

月平均利用者　105.4 名　　1 日平均利用者 9 名

・えんくる食堂　夜の食堂　1,246 名　平均　52 名

カレーランチ　481 名　平均 40 名

・チャレンジ・ラボ　47 名　平均　9.4 名

②運営支援する若者の参加人数（延べ）

こども☆きっさ 141 名　えんくる食堂　72 名　合計 222 名

③利用満足度

大変満足　69.6%　ほぼ満足　3.0.4%

④支えあいのネットワーク

かわさきくらしやすいまちをつくる会の結成

多摩区　高津区保護課　　社会福祉協議会との連携強化

事業の課題と今後の展望

①　中高生への対応の強化

中学生以上の子ども若者たちの居場所の必要性を感じ、一歩踏み出し、他者と繋がり、地域・社会へ参画していくことを応援する。

②若者と一緒のまちづくり、地域参加を促進する

支援する・されるの一方向的な関りではなく、ボランティアで関わる大学生、若者にとっても、地域参画のきっかけとなり自分たちが担い手になる双方向の体験が得られるような支援体制を目指す。

②　他団体組織との交流＆勉強会開催

利用者に単身者、高齢者も増えてきているため地域の様々な関係団体企業及びボランティアの個人と定期的に勉強会＆交流会を行うことで関係性を深め、それぞれの得意分野を生かした連携ネットワークを強化する。

カレーランチの様子　こどもだけでも参加

時短料理教室　未就学児～高校生の参加

チャレンジ・ラボ 「わくわくエンジン」

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

団体名	こどものまちミニカワサキ実行委員会
事業名	こどものまちミニカワサキ　運営会議、子ども会議、子どもワークショップ

ステップアップ助成

目的・背景

川崎市内の小中学生の多くは、学校や習い事、塾で忙しく、地域の仲間と一緒に自由に遊ぶ時間が限られている。その一つの要因として、子どもを育てる大人の側が、こどもの自己肯定感を育てるような目線や、子どもたちの育つ環境への関心が薄いことが多いからではないかと考えている。「こどものまちミニカワサキ」は、自分を表現したり、自分の意見や考えを表しながら、「まちづくり」という社会活動に参加する力を育むこと、また、その活動を大人が支え、機会を提供することで「大人と子どもが、支えあい、まなびあうまちをつくる」ことを目的に活動している。

本事業は、10 月開催のイベント「ミニカワサキ」を実施するための運営会議、こども会議、実施に関係する技術を身に着けてもらうための「こどもワークショップ」を実施した。

事業の効果

・こどもワークショップの中で、まちたんけんや、まちについて知る講座を新たに実施し、実際のまちとのリアルな関係性をかんじてもらうことができた。

・こどもスタッフの参加分布は、48 人で 23 校に渡り、きょうだい関係、もともとのお友達関係だけではなく、本人のやりたい意思であつまったメンバーで構成され、初めて会う子との交流の機会となった。

・こどもワークショップのひとつ「子どもの権利ワークショップ」を親子で参加できる形にし、大人と子ども別々に考えた内容を発表しあい、認識の違いを感じてもらう機会となった。

実施結果

4 年ぶりにコロナの影響を感じることなく事業を実施することができた。「こどものまち」開催の認知も増え、特に 2023 年度は、子どもたちの支援に関心の高い大学生・若手社会人サポーターが 6 名参画し、ファシリテーションや講座の実施に活躍してくださった。次年度、運営メンバーをやりたいと答えた子どもが 48 名中 13 名にものぼり、意欲をもって企画をしたい、支援側に立ちたいというこどもの育成にもつながってきていることを感じることができた。最終日のアンケートでの参加満足度では、「すごく楽しかった/楽しかった」と回答したこどもが 100%となったほか、保護者アンケートでも、大満足 63%、満足 31%と 94%もの保護者から高評価を得ることができた。

事業の課題と今後の展望

・川崎市の行政機関（川崎市市民文化局、建設緑政局など）と情報交換を重ねてきたことで、「こどものまち」の認知は広がってきた。

・2023年度中に、国内で「こどものまち」を長く開催している様々な団体にヒアリングを重ねた。また、「かわさきプロボノ部」やデザインリサーチ会社の支援を受けながら、理念浸透のための行動計画や、ボランティアサポーターが定着するための仕組みの検討を行い、内部の体制も整えつつある。これを踏まえて、今後も長く事業継続することを前提として、2024年度中のNPO法人等の設立を目指していく。

・年 1 回の「こどものまちミニカワサキ」の実施を継続しながら、こどもがまちづくりに参画する様々な機会の創出とを軸に、川崎市内の企業や団体と関係を深め、協賛金や自主財源での開催を目指していく。

運営会議では子どもが主役で、大人や大学生の前でも堂々とファシリテーションを担当

こども会議では、初めて会う子と積極的にコミュニケーションを取る姿がみられた

大学生サポーターは、子どもたちに近い存在で「相談しやすい」と評判だった

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	川崎盛盛祭実行委員会
事業名	川崎盛盛祭

目的・背景

近年川崎市の目指すリノベーションまちづくりという構想に則り日進町の古い簡易宿泊所がリノベーションされて外国人観光客や女性も宿泊しやすい施設が増えてきました。京急の高架の壁に壁面アートを描いたり、八丁畷駅前の公開空地を使った神奈川大学と連携したイベントなど、官民連携の取り組みが進む地域です。

羽田空港から川崎殿町にかかる橋も出来上がりつつある中、コロナ後のインバウンド再開も見据えて、今年出来ることとして国内、まずは川崎市民に向けたオモシロイ街づくりの事例の PR として、イベントを開催したいと考えています

事業の効果

イベント需要も回復してきた中での開催でした。

参画される地域の事業者さんからも、町内会やビルのオーナーサイドからも期待をされているのを声がけされたり実感しました。

地域の発信が目に見えて分かるイベントの効果だと思います。

今後の継続の為の課題は事業スキーム（イベント出店料、地域のお祭として地元企業 PR の協賛金を募る形などを）今後確立したいと考えています。

実施結果

イベント参加者は 250 名を超えて日進町のネガティブなイメージを払拭できるようなイベントになったと思います。

川崎小学校のポスター展示や PTA のポスターも掲示する事で小学校からの来場者も多かったです。

オフィスビルの前の公開空地の為平日のランチ需要などもありそうです。土日の大きなイベントだけでなく、平日にキッチンカーが出るだけでも賑わいを創出できるのではないかと感じています。

事業の課題と今後の展望

事業の課題の 1 番は予算です。

大きくやる場合は当然予算もかかる訳ですが、細切れに小さく、回数多く開催する事は可能だと思っています。

開催してみたいんだけど話し聞かせて欲しいなどの声も頂きました。

僕たちでなかったとしても定期的にこの空地を使ったイベントが行われる事で、地域の方々の交流の場、スタートアップの方の出店、出演の機会創出、町の新たな賑わいづくりにこの盛盛祭がきっかけとなっていくこと。

小学校との連携も出来たので小学校や PTA の出店、出演での参加も今後の希望です。

公開空地の本部テント

川崎ジャズと連携したライブ

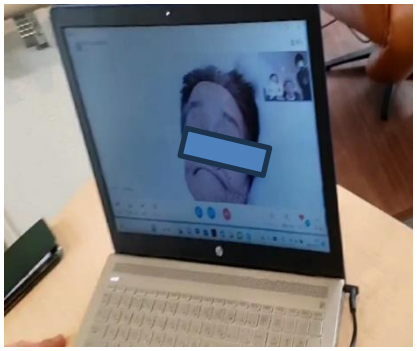
川崎小学校のポスター展示

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	かわさきくコミュニケーション・ボランティア（こみゅぼら）
事業名	・翻訳・通訳コミュニケーションボランティア活動事業 ・多言語コミュニティ翻訳通訳ボランティア情報共有事業

目的・背景	事業の効果
日常生活の情報を得るのが難しく、困っている現状を知った川崎区在住の市民らによって、2006 年 7 月「かわさきくコミュニケーションボランティア」（こみゅぼら）が誕生した。日本語を十分理解できないことで十分な行政サービスを受けられない外国人に対して、通訳・翻訳の支援をし、学校・役所・病院利用時の通訳を派遣する	外国人にとって言葉の壁は、様々な場面で障害となったり、不自由を感じたりする主たる要因のひとつである。地域活動に参加するにあたっても、言葉の壁は参加を阻む大きな要因になっていると思われる。 　翻訳・通訳コミュニケーションボランティア活動事業とボランティア情報共有事業を通じて、外国人も日本人もありのままで、自分らしく共に生きられる社会になる。外国人に対して優しい地域社会は誰もが住みやすくなる地域社会になる。
実施結果	**事業の課題と今後の展望**
多言語コミュニティ翻訳通訳ボランティア派遣活動事業 ・年間延べ件数通訳 355 件　翻訳 10 件 →依頼者へのアンケート結果依頼満足度（やや満足・満足　100%）、こみゅぼらみたいなボランティア活動継続性に関する質問に対して　100%はい、今後も依頼しますかの質問に91%はいの結果 **多言語コミュニティ翻訳通訳ボランティア情報共有事業** 年 2 回実施　10 月・3 月　直接参加できない方 Zoom とライングループで意見を載せる感じで参加(延べ人数 11 名)個人で活動するけど情報共有ができる場があり、心強くつながっている感じする。満足度 100%	・通訳を通じて依頼者からの相談が増えているので、ただの通訳活動から相談活動ニーズが高まっているようは現状 ・多言語コミュニケーションボランティアとして活動はできなくても、事業活動の意味を理解し、賛同してくれる仲間を増やすことで自立度が高まる。 ・少し通訳の手伝うことにより依頼者の自立化 ・各言語別ボランティア同士での情報共有などにより、ボランディア自身の不安軽減とスキルアップ



病院入院中患者との
ZOOM 面会韓国語通訳ン1

ボランティア同士の情報共有
（10 月・3 月実施）

診察の様子
（スペイン語通訳）

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	NPO 法人多摩川エコミュージアム
事業名	親子で多摩川の流れと自然を感じ取るラフティングボート体験会の実施(5 月～9 月)

目的・背景

川崎の母なる川である多摩川は、40 年前の高度成長時代での汚濁状況から、今では毎年鮎が 200 万匹も遡上するほど水質も改善され、市民の憩いの場所になっている。しかし、小さな子どもを持つ中年層の多くには、自分たちが過ごした多摩川は汚いもの、危ないところ、と言った概念が広がっています。このラフティングボートの体験会に参加された市民の皆さんには、多摩川の中に入って水上から眺めた両岸の景色の素晴しさや、野草・野鳥の視点を変えた観察での驚き、また川底を泳ぐ魚たちを覗いて知る種類の多さなどを、肌で感じていただきました。参加した子供たちには、大人になって自分たちの子供にも語り継げるような体験をしてもらいたいと願っています。

事業の効果

本年はコロナ明けの開催で、応募者、参加者とも計画通り集まり、身近な自然で遊べる魅力を感じていただけた。また、天候にも恵まれ 5 回の開催を実施できた。また、SUP体験を取り入れたことにより、若い母親の参加が増えた。そして、YouTube の再生回数も例として、昨年5月実施分は170回再生され、家族で何度か見直しているようです。

子供たちと一緒に学んだ自然観察で、玉網や投網で捕まえた在来種の魚は最後に逃がし、外来種は処分すると説明した所で泣き出す子が出てきた。ここまで説明しきったことにが良かったかは親子で話し合ってほしいと思いました。

実施結果

開催5回で、応募176組、参加者数44組104名は目標達成でした。宣伝不足の初回を除き、応募者は定員の3～4倍ほどありました。体験会の感想と YouTube 確認をメールで依頼したが返信が少なく回答の回収方法が課題となった。Webでの申し込みが定着したことから、次回より Webでのアンケートを考えます。

応募者数が多かったことから。参加者にボランティアの呼びかけを行ったが反応はなかった。応募者に対する呼びかけより、せせらぎ館の別の企画に参加された方に声掛けをして2名の参加が得られた。それほど多数の募集ではないので地道な声掛けの方が効果があったが、次年度も本年の参加者からボランティアを募集は実施し続けます。

事業の課題と今後の展望

3年間助成を受けて活動をしました。ほとんどの期間がコロナでの制約を受けた活動でしたが、本年は 5 回すべての計画が開催が出来て新たな課題もできてきました。これを踏まえて、次年度は NPO の自力開催を計画しています。もともと多摩川とのふれあい活動は NPO の中心的な活動となっているため外せません。3年間の経験をもとに、さらに楽しい体験会を作って行きます。

この間に応募の方法も紙で FAX の申し込みが、スマホで Web に書き込んで申し込みに変わりました。60代～70代中心の運営から、30代～40代の運営へと変わりつつ有ります。多摩川中洲での自然観察も外来生物の説明から駆除・防除活動が始まりました。遊び道具もラフティングボートから SUP へと変わってきました。

私たち NPO も時代に合わせて活動します。

みんなで漕ぎ出せ1・2・1・2

親子で SUP

親子で河童の川流れ

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	NPO 法人多様な学びプロジェクト
事業名	かわさき学校外で育つ子どもの居場所（街のとまり木）マップ制作とこども文化センター居場所事業

目的・背景

不登校児童生徒数はコロナ禍の学校休校などをきっかけにこれまで以上に増加し、川崎市では 2021 年度の長期欠席児童生徒数は 2453 人にも達します。一方で、川崎全市にある不登校の子ども向けの居場所は 11 箇所しかなく、不足しているのが現状です。弊団体が不登校の子ども達に実施したアンケートでは 75%が平日の昼間の居場所へ行くことを希望していますが、不登校の子どもの居場所の情報は不足しており、多くの親子は不登校になった途端に地域で孤立してしまいます。
弊団体は不登校の子どもと保護者に居場所を紹介するサイト「街のとまり木」で約 500 団体を紹介してきました。サイトをきっかけに居場所を利用するようになった子どもたちがいる一方で、不登校の親子の多くは心身共に消耗し能動的に情報収集することが困難なため、ネットの情報にアクセスしづらい現状があります。
そこで 2022 年度にはかわさき市民公益活動助成金事業としてで川崎地域の不登校の子どもと親の居場所を紹介するマップを制作し、親子が立ち寄る可能性が高い社会教育施設等や在籍校等で配布し、アンケートを実施して事業効果を測定しました。２年目となる今回はアンケートに寄せられた意見を元にマップを改善すると共に、こども文化センターを利活用する居場所事業を行いました。

事業の効果

【地域マップについて】
保護者のアンケート回答で「マップに記載されている『とまり木』を新しく訪問した」が高い回答率だったなど、地域の居場所の紹介が有効であることが示唆されました。また「『マップ』についてどう思いますか？」「『マップ』を同じような立場の人に薦めたいですか？」の設問でも高い数値が得られました。
一方でとまり木として紹介されていたこども文化センターを平日昼間にこどもだけで利用しようとしたところ断られたという回答がありました。マップの意義が現場スタッフまで伝わらないことで反対の成果が生まれる結果が見え、効果を生み出す為には現場スタッフへの研修が早急に必要であることが読み取れました。
【居場所事業について】
保護者会を実施した高津区では、継続的に利用したり、こどもが親から離れてこども同士で遊ぶようになるなど効果が見られました。一方で保護者会を実施しなかった川崎区では利用が最初の1名のみでした。保護者会を同時開催しなかったためにこどもが親から離れる機会がなかったことが影響していると思われます。

実施結果

・川崎市内の子ども文化センター、市民館、区役所、総合教育センター、ゆうゆう広場及び市立小中高各種学校等、322 箇所へ川崎地域マップ及びポスターを配付しました。マップの効果を確認するアンケート調査を、川崎市こども未来局青少年支援室及び市内の不登校親の会の協力を得て、川崎地域マップ掲載施設及び利用者に対して実施しました。

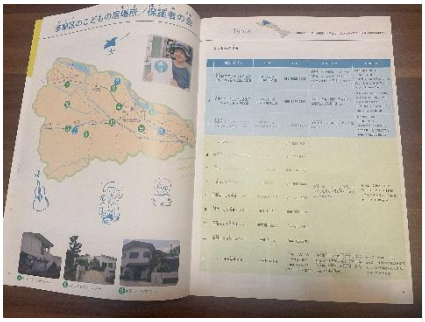
・川崎地域マップ利用者に対しアンケートを実施し、川崎地域マップ記載の居場所利用状況、利用前後の変化等について測定しました。また、居場所カフェに集まるこどもたちや親の姿を観察し、観察評価を行いました。事業終了後にスタッフで事業の振り返り会を開き、事業の実施体制や進め方、次年度について自己評価の振り返り評価を行いました。

事業の課題と今後の展望

・本事業がモデル事業となり、次年度は川崎市で予算化され、保護者への情報提供の紙のマップとサイトが作成されることになりました。またその内容についても当団体も関わることとなりました。
・一方で、特にこども文化センターにおいて居場所の受け入れが充分でないことがアンケートから伺えました。本事業で実施したアンケートの結果に基づき、こども未来局や教育委員会に対して、次年度においては政策化された喜びだけでなく、施策の改善を伝える予定です。
他地域展開については、本団体が今年度国（文科省）への政策提言によって、７月３１日に文科省より保護者への情報提供の必要性の通知が出たことにより、各地に広がりを見せており、一定の成果を挙げられたと考えます。
・居場所事業においては次年度は川崎市では予算化されていませんが、受益者ニーズに添ったものであったことは利用者の数や声から伺えました。次年度も継続して事業を行うことで、こちらも政策化を目指します。また政策化する上での課題の抽出化も目指します。

とまり木カフェ。保護者とスタッフが語り合う。

街の先生。革細工づくり。



街のとまり木マップ

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	コスギアート ラ・ファブリカ実行委員会
事業名	”誰もができるアート体験” 街ナカアート 2023 Autumn & Winter

目的・背景

自然豊かな中原平和公園の野外音楽堂と平和館を利用する事で、文化的な体験活動と野外で自然に触れる事の両方を、参加者に提供し、アートを手法とし「誰でもできる」をテーマとする事で、新しい文化活動への興味と関心を呼び起こしたい。

興味関心を軸とした新たな活動体が発足したり、ここで知り合った団体どうしのコラボレーションにより、新たな企画が市民創発により生まれていく。近隣地域住民とのコミュニケーションの場作りを行うと同時に、それぞれに主体的な活動を行う多様な団体による、協働・連携の推進を図り、住みやすい街としていくことを目的とする。

事業の効果

1）参加した子ども達にとっての情操教育への助けとして、ワークショッププログラム10種類の実施と、協働制作による大型アート作品を制作する。青少年が活動主体となる文化団体を公募し、発表

2）中高大学生のボランティアを広く受け入れる。

・過去のイベント開催においても、不登校からのひきこもり状態にある若年者から、自発的なボランティア申し込みがたびたびあった。イベント終了後に、こうしたボランティア体験を次の進路に活かして進学する、という事例もいくつかあった。

3）平和公園近隣住民の参加交流のための場として活用

実施結果

【街ナカアート Autumn】 プログラム詳細はパンフレット参照

■開催日　2023 年 11 月 4 日　■参加　41団体、来場者 2000

11 月から冬季時間のため野外音楽堂の利用時間 17 時まで。

昼の部→変更無し、夜の部→日没後の野外音楽堂企画は無し

【街ナカアート Winter】 プログラム詳細はチラシ参照

■開催日 2024 年 2 月 15 日～18 日■参加　6団体、来場者 1000　※実施に先立ち、パレード WS 用の音源制作スタジオ録音中止。サンバ音楽隊と日程予算調整が不調となり別途PC編集音源で対応。15 日小屋入り 16 日前夜祭、17 日 18 日、本祭『カワサキワカモノ未来プロジェクト』からの発表団体受け入れ、高校生による演劇公演と、ボッチャ体験プログラム実施

事業の課題と今後の展望

・こどもの情操教育や多様な価値観と感性を育む体験活動として、市民が主体的に行うイベントとして定着させたい。

・さらに、コスギアート ラ・ファブリカと連動した「アートによるまちづくり」発展させ、将来的には、区域内独自の文化芸術活動の「中間支援組織（アーツカウンシル）」立ち上げを目指す

・本企画により広く一般の方とアート体験を共有し、イベント一般来場者からアートを発信する側への変化を促進することで「市民による文化芸術創造」を促進し、そのための「オープンスペース・体験の場」を確立する

・屋外型企画、屋内型企画ともに、連携する形でさらに踏み込んだ創作活動を行い、その成果を内外に向けて発信していきたい。

街ナカアート Autumn フィナーレ

街ナカアート Winter　前夜祭

街ナカアート Winter　ピースパレード

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	特定非営利活動法人水・防災機構
事業名	多摩川に関する水防災・気象講座「多摩川めざせ！防災とお天気博士！」の企画及び運営業務

目的・背景

昨今は気象変動に起因する災害が多発しており、巨大台風やいわゆるゲリラ豪雨が多発するなど気象変動に伴って洪水発生の危険性が高まっており、川崎市でも多摩川で 2019 年に大きな洪水が発生し、市内でも下水道を起因とする大きな被害があった。このため、河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策「流域治水」への転換が進められており、住民が水災害について予め理解を進め、自発的に早めの避難行動を起こすことによって「地域の逃げ遅れゼロを目指す」ための活動の一環で本事業を実施した。本事業施により、参加した親子が友人などと知識を共有し、地域全体に理解が広まることを期待した。

事業の効果

参加者へのアンケート結果では、短期的アウトカム「理解度」の項目については、講話、洪水の実験、気象の工作毎、対象を子どもと保護者で計測した。全般を通じて目標を9割近く達成できており、概ね事業実施の効果をあげられたと考えている。

また、当日の理解を伝えたいかという項目については、ぜひ伝えたい・伝えたいの回答が子どもで75％（n=102）、保護者で99％（N＝61）であった。参加した子どもへ友だちと知識を共有しようという呼びかけが足りなかったと反省する。

次年度以降も事業実施に際しては、同種項目を継続して効果計測を行い、川崎市や国土交通省等の行政との協働に取り組む。

実施結果

本事業の実績として、洪水の仕組みと気象の不思議を学ぶ講座を2回、気象の不思議を学ぶ講座を3回実施した。参加者数は、5回の講座総計で子ども118人、保護者65名となり、概ね目標の参加者が集まった。開催告知等の事前広報は、子ども文化センターの便りや HP をはじめ確実に実施した。

参加者へのアンケートでは、参加者数・子ども118人、保護者65人のうち、有効回答が子ども102人、保護者61人となった。このうち、全体の感想について5段階評価でアンケートを行った結果では、下位2項目（子ども：全体の感想に関し、「悪かった、とても悪かった」、大人：全体の満足度「不満、大変不満」）は0であったことから、当初掲げた満足度の目標については達成した。

事業の課題と今後の展望

参加者が少ない講座があったが、3連休の中日や学期終わりなど開催のタイミングが悪かった感があり、センターとの日程調整に課題を残した。

今後の展望については、これまでの4回の講座に加え、今年度の事業より5カ所の講座を開催することができた。今年度に引き続き、多摩川流域にある全てのセンターでの講座の開催を目指し、2024年度のかわさき市民公益活動助成金にも応募を行った。

自主財源の確保については、取り組みに賛同いただける企業が今年度よりも増加する予定となっている。こうした皆様の支援もいただきながら、将来的には川崎市以外の流域自治体にて「多摩川めざせ！防災とお天気博士！」の事業を展開・発展させ、本事業を継続させていきたいと考えている。

観望天気の書つくり

洪水の仕組みを学ぶ実験

参加した子どもたちと講師で記念撮影

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	平瀬川流域まちづくり協議会
事業名	平瀬川流域のまちづくり　～30 余年の活動とこれから～

目的・背景

平瀬川流域まちづくり協議会は、1998(平成 10)年に設立され、その前史から含めると 30 余年の活動になります。平瀬川流域での川を活かしたまちづくりをテーマに、河岸への桜の植樹や地域自治会、小中学生も含めた川の清掃活動などを毎年継続し、今では川もきれいになり、春は桜の名所となり、鮎も遡上し憩いの散歩道になっています。しかし、今の環境は長年かけて創ってきたものであることを知らない人も増えています。そこで、これまでの取組みを多くの人に広く知ってもらい、これからも多くの人々が参加するように働きかけていきたいと考えています。

事業の効果

冊子は、平瀬川をめぐる市民活動の貴重な記録、と好評を得、多くの方から貴重な冊子をありがとうとの声をいただきました。

シンポジウムは、小学生の取組み発表が PC を駆使し素晴らしいものでした。パネルディスカッションでは、今後課題となる平瀬川水源域の水と緑の環境保全について、副市長や専門家を交えて話し合われたことが今後の取組みの契機になります。早速、宮前道路公園センターに窓口が設置され、3 月 5 日に行政関係者と平瀬川流域まちづくり協議会スタッフとで現地視察を実施しました。

実施結果

助成金を活用して二つの取組みを実施しました。

①冊子『平瀬川流域のまちづくり～30 余年の活動とこれから～』を作成発行しました。当初予定 500 部のところ増刷して 700 部作成し、11～12 月に流域の関係団体・個人、小・中学校、企業・事業所、行政機関（市役所、区役所、向丘出張所）等に配付しました。

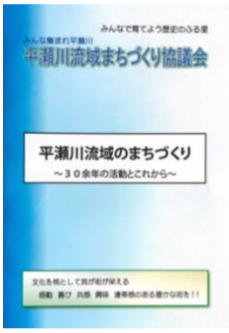
②1 月 28 日に流域の JA セレサ川崎菅生支店を会場にシンポジウムを実施し、会場一杯の 116 名が来場しました。流域の関係団体や小学生の総合学習での取組みの活動報告に続いて、学識経験者や川崎市副市長、地域代表などによるパネルディスカッションを行ない、これからの平瀬川源流域の水と緑の環境整備について話し合いました。

事業の課題と今後の展望

・平瀬川源流域の環境保全について、横浜市との市境尾根に「緑の回廊」を造る構想の具体化に向けて、行政と連携して可能なところから一つひとつ課題解決に取組んでいきたい。

・例年実施してきた、4 月のさくら祭・稚鮎の放流会、7 月の平瀬川流域の清掃活動などを継続し、地域に PR して盛り上げていきたい。

・若い人たちの参加に向けて、ホームページの立ち上げを行ないたい。



冊子「平瀬川流域のまちづくり」

1/28 ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑでの小学生の発表

ﾊﾟﾈﾙﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ　藤倉副市長も出席

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	特定非営利活動法人　ホッとスペース中原
事業名	ホッとスペース中原

目的・背景

ホッとあたままるスペースを
すべての人と共有するために

ソーシャルインクルージョンへの社会改革を促す基盤（プラットホーム）を創造する。個の分かち合いから地域の課題を掘り出していく。名前を呼びあう地域の関係性を構築する。

背景

孤食者の増加、地域の関係性を築きたいけれど、きっかけの場所が見当たらない状況にある人たちとの出会い、息抜きができず、煮詰まっている保護者との出会い。コロナや急な病等で貧困となり、明日の食事がない状況にある人との出会い。それらの出会いを通して、地域の関係性を構築し、地域で子育てをしていくこと。保護者の息抜きとなる場所の創造、少しでも生きる希望につながり、必要時には制度につなげていくフードパントリーの活動を行った。

1．地域のホッとカフェ　2．フードパントリー

3．親子広場　4．居酒屋ホッと

事業の効果

〇ホッとカフェ　子どもたちや保護者のつながりの場、成長する場となりました。また地域の方ともつながる場所ともなりました。小学校に入る子どもたちのつながりができることで、新しい環境への不安が軽減され学童などの場所を共有し、保護者の不安も軽減されていました。

ご支援いただいた企業：和幸、ドミノピザ、餃子の王将、 ヱスビー食品、子ども食堂支援機構、岩手県一関市、鳥新、武くん、鈴や等

〇フードパントリー：生活が支えられ、次の社会との接点がなかなか持てない方が、地域食堂に出てこられた方がいた。

〇居酒屋ホッと　母子父子、ワンオペの保護者で煮詰まった大人同士で悩みを相談し、みんなで解決もしくは分かち合えることで心にゆとりをもてるようになり、居場所となりましたとの声が届いています。他の就労支援 B 型で働く方が調理補助で入りたいという希望を聞き、起業応援センターへの登録と短時間雇用プロジェクトに申し込む段階になるなど、制度につなげることができた。

実施結果

58 家族がアンケートでは、居場所として、居心地がよいと感じ た人が 98%。地域の情報を知ることができた人は 98%。また地域の人々がコミュニケーションを図りながら地域の情報を共有できる場として機能していることを示しています。 地域との関係性を構築するうえで、初めて話した人が 42%、友達と話した 28%と孤食者や地域の人々がつながり、コミュニケーションを取る機会を提供していることが分かります。通所介護の方が手製のお菓子等を参加された高齢者が子どもたちへ手渡しをすることで地域で育てていくことを感じられた方がいました。また、来られた方々の自由を尊重しつつ、片付けや発表する時、近況を分かち合う時間をもつことで、成長の場、つながりの場となりました。また川崎市立川崎高等学校の発表の場としても活用されました。

事業の課題と今後の展望

来年度以降　継続し、一貫性の居場所を提供していきます。

来年度

地域のつながりができつつあるので、継続します。

SNS とチラシを活用し、新たなつながりをつくりつつ、企業や活動を支持する人たちを増やしていくために、SNS 等で発信していきます。

ご支援いただいた企業名に声かける。

2025 年度には、児童の分野（放課後デイサービス）を事業化していく予定です。

ホッとカフェ　第2，3，4週　火曜日開催

フードパントリー　第3日曜日　開催

居酒屋ホッと　毎週木曜日　開催

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	THE アート・プロジェクト多文化読み聞かせ隊
事業名	末長市営住宅「ふれあいルーム」を「まちのひろば」として有効活用するためのプログラム事業

目的・背景	事業の効果
地域、特に市営住宅には、一人暮らしの高齢者が多い。不登校、ひきこもり、様々な事情を抱えて、孤立しがちな方も多くいる。そんな方々が、少しでも興味を持ち、「行ってみようか」「やってみようか」「いてもいい場」という気持ちになれる「まちのひろば」作りをめざす。 「まちのひろば」作りは、高齢者などに加え、海外につながる方、障がいのある方、LGBTQ の方、誰もがそれぞれの文化を尊重し、つながれる社会、誰もが生きやすい社会（多文化共生社会）につながる場だと考える。	当住宅の自治会との関係で、当住宅の来訪者は 2 人だけということが多いが、2～4 人の常連さんができた。そのほか地域住民1～3人の参加のある日もある。 高津高齢者福祉：交流センターで行った「末長まちのひろば祭り」には40名ほどの参加者があった。 「ふれあいルーム」に来ることを日課にしている常連さんは2名おり、友達を誘って、来てくれる。日課を調整して来訪される住民もできた。地域の施設に配架されたチラシを見て来訪される方もある。当住宅の住人を中心に、「和服を着る会」を作ろうという話がでている。着付けや、和服について詳しい住人が積極的に関わって企画が進行中である。 実際には、アンケートはとらなかったが、体感として目標は 80%以上達成できたと思う。
実施結果	**事業の課題と今後の展望**
にこぷら新地、高津老人福祉・地域交流センターを会場としての企画には、当市営住宅住民以外の地域住民の参加が多く、「ふれあいルーム」について、また私たちの活動について、認識してもらえる機会となった。 「末長まちのひろば祭り」「料理教室」のアンケートでは、 ・とても良かった。 ・同じようなイベントを企画してほしい。 ・また、来たい。 ・「ふれあいルーム」にも行きたい。 というものがいくつかあった。	高津老人福祉・地域交流センターで行った、「ボリビア料理教室」「ペルー料理教室」には、当市営住宅の住民だけでなく、多くの市民、海外につながる市民の参加もあり、料理を作り、食事し、楽しく文化交流もできた。 「末長まちのひろば祭り」には、障がいのある若者、近隣の小学生、海外につながりのある市民、市営住宅の方はお孫さんを連れて、多くの方が、講師のパフォーマンスを楽しんでいかれた。けん玉に夢中になる高齢の方もいた。 高津老人福祉・地域交流センターでのイベントで「ふれあいルーム」を広く紹介できた。 市営住宅の住民の困りごとを聞き、福祉関係につなぐこともできた。 地域住民だれもが、楽しく、生きがいを持って生活できるための場を提供することを目指す。

フラを楽しむ会

季節の歌を楽しむ会

おと絵がたり

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

スタートアップ助成

団体名	特定非営利活動法人芸術村あすなろ
事業名	NPO 法人芸術村あすなろ創立 20 周年記念コンサート 芸術村あすなろ創立 40 周年記念コンサート

目的・背景

NPO 法人芸術村あすなろ創立 20 周年にあたり、これまで多くの皆様方に芸術村あすなろの取り組みを御理解頂き、御参加、応援頂いて参りました感謝の気持ちをお伝えする場にしたいと思い、どなたでも参加できるプログラムを年齢別に組み合わせた参加型のコンサートを企画しワークショップ、オーディションを経て本格的な舞台を体験して頂くことを目的に動き始めた。

事業の効果

＜親子で歌おう＞＜成人の混声コーラス＞＜弦楽アンサンブル＞そして＜オペレッタ・白雪姫＞と、どのプログラムも当初予定していたより多くの参加者があり、ワークショップの中でじっくり基礎的なカリキュラムを積み重ねることができたことで、本番に向けて参加者の力がふくらんでいくのが感じられ、本番では会場のお客様と一体になって舞台が盛り上がっていくのを感じることができました。

実施結果

会場にいらして下さった方から「子供の発表会のようなものを想像して来てみたけれど、本格的な舞台で特に参加している子供たちがよく勉強していることが感じられてびっくりしました。」との声をたくさん頂きました。また、公演後「あんな演奏ができるようになるには、どこでどんな稽古をしたらいいのか？」との問い合わせや、次回はいつやるのか等の質問を頂きました。

また、参加された方々からも引き続き歌いたい、弾きたいとの声も多くあり検討を始めています。

事業の課題と今後の展望

今回の取り組みが一回限りにならず、参加した人たちにとっても御来場くださった方々にとっても持続性のあるものでなければならないという気持ちを持ちました。そのために若い力や子供たちの保護者の力を取り込んでいくことも大切なことで、NPO 法人芸術村あすなろがやることというよりも参加したひとりひとりが自分の舞台という意識を持って取り組めるようでなければならないと思いました。

親子で歌おう

成人の混声コーラス

オペレッタ・白雪姫

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	特定非営利活動法人 NPO 福祉支援ゆうやけネット
事業名	はじめてのスマホ安全教室

目的・背景	事業の効果
現在のデジタル社会で必要不可欠なスマホを安心して使えるように、シニアを支援するため。 支援の輪を広げるために、はじめての方を地域で支援するサポーターが必要です。 勉強会参加者からサポーターになっていただける人材も育成していくことで、多くの人が安心・安全にデジタル社会に対応できる可能性があります。	初心者の場合、個人ごとにスキルが異なりますが、半数以上の初心者の方は、疑問点がわかり、活用できるようなりました。 参加者はほとんどが初心者で、まだ、サポートできる段階までレベルアップは困難でした。サポートボランティアの方のスキルアップには貢献しました。 スマホを安心して使う方法は学べるけど、巧妙な手口が多いので、被害にあった時の相談・対処などをより多く説明しました。参加者は理解して頂けたと思います。
実施結果	**事業の課題と今後の展望**
スマホ初心者の方が勉強会に参加者　50名 地域でサポーターとなれる人の参加者　2名（ボランティアで参加してくれた人） 「はじめてのスマホ安全教室」資料（印刷版とダウンロード版）を地域包括支援センターや宮前区市民館にて配布 ダウンロード https://yuuyake.or.jp/terakoya/smaho-safety	今後、参加者がスマホで困った時に相談していただける勉強会は毎月継続して開催します。 ゆうやけネットのホームページにて公開し、内容も更新する予定です。 https://yuuyake.or.jp/terakoya/smaho-safety 3 月 4 日に開催した川崎区京町セソールマンション組合にて 2 回目のスマホ講座を開催予定です。 川崎市内のスマホボランティアグループの技術情報共有 SNS 型ホームページの運用を継続して実施します。ボランティアさんの質問に答えながら、サポートで必要になる技術情報を共有します。 https://smaho.yuuyake.or.jp

教材

2023 年 12 月 16 日ミューザー川崎

2024 年 3 月 4 日川崎区京町にて

2023年度かわさき市民公益活動助成金　事業成果PRシート

ステップアップ助成

団体名	なかはらミュージカル実行委員会
事業名	第 11 回なかはらミュージカル

目的・背景

武蔵小杉駅周辺の再開発等により人口流入が著しい川崎市中原区において、新たな地域コミュニティーの形成をはかり、新旧住民並びに世代間の交流を促進すること、郷土の歴史・風土に根差したオリジナル作品の創作を行う事により、参加者の郷土への愛着を涵養し、次世代の地域活動の担い手となる青少年の育成を行うことを目的として開催している市民参加型のミュージカルです。これまで 9 回の本公演では毎回約 1,200 名の観客動員を誇っている。この 11 年目の活動にご支援をいただく。

事業の効果

・自己表現の経験

ミュージカルの出演を通して、芸術活動および自己表現を経験する。

・幅広い年代の方に参加いただくことによって、世代を超えた交流の場となる。

特に、子どもたちには、親でも先生でもない大人と同じ目的をもって対等に活動することによって、世の中に存在する様々な生き方や考え方を知ることができたり、困った時の逃げ場（頼る先）を増やすことができる。

・なかはらミュージカルへ興味を持ってもらうことによって、公演のテーマである「中原区の歴史や文化」について知ることができる。

実施結果

【参加者】

・参加人数 68 人
・参加者の年代　小学 1 年生～69 歳
・参加者向け歴史勉強会の実施　1 回
　2023 年 8 月 26 日　　＠小杉小学校多目的室
　講師　アミガサ事件 100 年の会テーマ 「アミガサ事件について」

【観劇者】

・有料観劇者／総席数＝1108 人／1136 席　（97.5%）
・観劇者アンケートの実施
　作品の評価
　　本公演の満足度　とても満足 87.1%
　地域の歴史・文化への興味の向上
　　中原区の歴史について興味を持てましたか？
　　大変興味を持った　57.7%
　　やや興味を持った　37.4%

事業の課題と今後の展望

出演者、保護者、観劇者へのアンケート結果からは、異世代の交流の意義や中原区の歴史的事実（今回はアミガサ事件）に根差したオリジナルストーリーから得た地元への関心の高まりがうかがわれたことは大きな成果と考えられるが、60 名を超える市民参加による本格的なミュージカル制作には長期間にわたる稽古や、その場所の確保が必要であり、活動を支える運営スタッフ、ボランティアにも負担が大きいものとなっている。

一方で、活動が 10 年を超えることでかつての子どもキャストが成長し、その一部は今年度「青年部」として組織され、引き続き小道具の制作や本番の舞台設営などの裏方で活躍した。今後の運営の中に、こうした次世代の育成について意識して取り組んでいく。

虹組　オープニング（本公演時）

夢組　絞り染めの披露（本公演時）

夢組　堤防作り（本公演時）